

成田市生涯大学院

運営 成田市教育委員会

○所在地 成田市圀護台1385-6 成田市生涯大学校

○連絡先 0476-20-3339

○創立 1978(昭和53)年に成田市老人大学院として開講し、2001(平成13)年に生涯大学院と改称

○入学資格 市内に住む60歳以上の人。各学年100人

○経費 教材費など実費を除けば無料

○課目・学科 6

○専門講座6 書道 園芸 陶芸 油絵 体操 音楽

○教養講座 ○課外活動 グラウンド・ゴルフ大会 学園祭 広報誌「すえひろ」 書道・陶芸・油絵展

年間教養講座を25講座、専門講座を15講座 そのほか学園祭や作品発表展

○卒業後のようす 1200人の卒業生が活躍

○特徴: 社会環境の変化に順応していく能力を再開発するための学習機会を提供して、高齢者が大切な社会の担い手として、その豊かな能力を地域社会の向上のために生かすことによる新たな生きがいの創造を促すことを目的とする。市民の高齢期の生きがいを高める施設として設置されたあと、より広くより深く学べるように講座内容の充実につとめてきた。専門講座は芸術分野を中心にしているが、教養講座は自分史の書き方、心に響く話し方、相続税について、地球環境の現在、野生生物と自然、薬の副作用、調理実習、手話を学ぶなど高齢者のニーズに応えている。(本誌「地域高齢者大学校案内」より)



地域高齢者大学校の役割

どこの地域高齢者大学校でも専門講座と一般教養講座を設けていますが、それぞれの特徴を持っています。

おおまかな比較ですが、自治体や公民館活動としての「生涯学習」は、歴史のあるところほど設置の経緯から、個人の生きがいづくりに重点があって、女性を中心に男性の参加が少なくなっています。一方、地域大学校は、60歳以上の高齢者に個人的な生きがいとともに地域づくりへの参加も視野にいれたカリキュラムを構成して、地域のニーズを背景にした技術・知識をもつ高齢者を養成するとともに、生涯の学友を得る機会を提供しています。定年後に地域活動に参加する希望をもつ男性が多く参加しています。

全国の地域大学校を調べていますが、歴史と現状からいって特徴をもつところとして、

兵庫県の「いなみ野学園」があります。1969年・昭和44年の開設。1999年の「国際高齢者年」には「いなみ野宣言」を出しています。4年制で専門講座は4つ。健康づくり学科、文化学科、園芸学科、陶芸学科、それに教養講座を受講します。次に特徴的なのは東京・世田谷区の「シニアカレッジ（世田谷区生涯大学）」です。1977年・昭和52年の開設。2年制で専門講座は5つ。社会（社会と歴史）、福祉、生活、文化（読・書再体験）、文化（東京と世田谷の歴史）。学園祭のほか文化祭は高齢者クラブ・シルバー人材センターと3団体で共催など。高齢期になって何をしたいかわからない人が講座をつうじて自分の特性を発見して、卒業後にまちづくりに積極的に参画しています。もうひとつ同じ東京の「江戸川総合人生大学」。人生大学という名前も特徴をもっています。学長はビートたけしのお兄さんの北野大さん。江戸川区は高齢者が住みやすいまちづくりに力をいれていて、全国的にも注目されています。2年制で2学部4学科。学科は、まちづくり、国際コミュニティ、子ども・子育て、介護・福祉学科です。インド人の居住の多いことでも知られています。

「成田市生涯大学院」のこと

「成田市生涯大学院」の場合は、専門講座は、書道、園芸、陶芸、油絵、体操、音楽の6つの講座です。芸術系技能を専門講座にして、高齢期に必要な知識は一般教養講座としてみんなが共有することになります。

成田の特徴は、それぞれ好きな専門講座でまず自分が楽しむ。夢中で楽しむ。これがないとダメです。そしてまわりのクラス仲間と切磋琢磨してみんなで楽しむ。さらに技術を上げて街へ出てみんなを楽しませる。こういう形態をもった地域大学校はほかに見あたりません。

「書道」は書く内容が志とかかわってくるので、「こころ（ざし）＝知識」と「ふるまい＝技術」の両方にかかわりますが基本は美しい字を書く技術です。「園芸」「陶芸」「油絵」はどれも「ふるまい＝技術」にかかわりますし、「健康体操」は「からだ＝健康」と「ふるまい＝技術」にかかわりますし、音楽は「こころ（ざし）＝知識」「からだ＝健康」「ふるまい＝技術」の三つすべてにかかわります。

「音楽」にはすべての機能がかわっていて、歌のない人生はありません。わたしは歌なんか、という人も鼻歌を歌っている。クラシックをやっている演歌まで歌う。

期間は3年。3年生の方とお会いしましたが、「あっという間でした」といっていました。短かったというのは、それだけ好きなことに熱中できて楽しかったからでしょう。

「書道」のみなさんの作品が商店街に展示されていて、わたしも参道のあるきながら拝見しましたが、一生懸命書いたものはいいですね。内容にも吟味があつて。「陶芸」2年生の作品を手にとってみせてもらいましたが、ここまでできるのかと驚きました。欲しい人に有料で分けてあげる機会として「大学文化祭市」といったものがあるといいですね。「油絵」もそうですが、自分が手元に残しておきたいと思う作品はみんなが欲し

がるはずですから。「園芸」もまずは自分の庭や畑でしょうが、隣近所の庭や公園や里山やをフィールドにする。卒業生が増えればそれだけ緑のまちづくりに貢献する人材が増えることになります。「健康体操」は自分で覚えてみんなに教えて差しあげる。「音楽」は市民の出演希望に応えたり、子どもたちと共演したり。そうして3年の間に生涯にわたる学友を得ることになります。

昨年は日野原重明先生をお迎えして特別講演をお願いし、「音楽」のメンバーも加わって「ふるさと」の指揮をしていただいた「邂逅」という市民参加の会を成功させたそうです。36年間の先人の業績を合わせ活かしながら、個人としても市民としても高齢者が生き生き暮らせるまちづくりの拠点として成田市生涯大学院は着々と歴史を刻んでいるのです。（堀内正範 記。2013年6月26日に教養講座で「丈人力のススメ 人生90年時代を上手に生きる」という題で話をしました。）